静岡大学生涯学習教育研究センター

地域と大学

第8号

Newsletter No. 8, Center for Education and Research of Lifelong Learning

カナダUCFV大学の継続教育コース見聞記

平成12年度末の3月17日より1週間、カナダの大学におけるcontinuing education (継続教育または連携教育)システムを見学する機会を得た。時差が12~14時間あり、またカナダ国内の移動にも飛行機を使用せねばならないので、訪問先の大学は2ヶ所とした。カナダは生涯学習や継続学習教育では先進国であり、訪問先にはわが大学と姉妹校であるアルバータ州立大学ではなく、まだ気温が零度以下であった中央部のマニトバ州にあるウイニペグ大学(UW)とこの地よりは暖かい太平洋側のブリティシュコロンビア(BC)州のバンクーバーの東部にあるフレーザーバレー大学(UCFV)を選んだ。ここではUCFVの継続教育システムについて、見聞したことを中心に述べる。

UCFVは上述のようにBC州の中心都市のバンクーバーから東へ80kmのところにある風光明媚なフレーザー川渓谷地帯にあって米国との国境に近いアボツフォード市にメインキャンパスがあり、また10数km離れたチリワック市内にもキャンパスを有している。

この大学は前身の職業専門大学と法律研究所が 統合されて1974年に創設された新しい州立大学で ある。同じBC州にある総合大学のUBC(ブリティ シュコロンビア州立大学) およびサイモンフレー



写真1 UCFVアボツフォードキャンパス

ザー大学と教育研究体制 を連携している。

生涯学習教育研究センター長

3月17日の午前8時30 分、イギリスのエリザベス女王も宿泊されたこと のあるバンクーバーの中 心地にあるフェアモント ホテルに大学の国際担当



滝

のDea Freschi女史に出迎えていただき、1時間のドライブののちアボツフォードキャンパスに到着した。当日は10時から夕方までびっしりとスケジュールを組んでいただき、大学の継続(連携)教育の説明と施設をいろいろな方に案内していただいた。何度も来日の経験もあり、昨年わが大学の生涯学習教育研究センターを訪問していただいたLinda Brown女史と市民開放・ビジネス・情報学部長のKaren Evans女史らの大きな歓迎を受けた。ここのスタッフには女性が多くて大変明るく活気があり、我が国の大学の事情とは大きな相違をまず感じた。

この大学は創設された経緯から、農学・園芸、航空学などの職業専門科目や法律、幼児教育までたいそう幅広い分野の教育プログラムが組まれている。これらのコースを2年間修得し学位免状を取得した学生は希望すればさらに上の学士課程に進学し、文学、理学、経営管理、コンピューター情報処理、社会福祉などの10学部の学士プログラムが準備されている。2つのメインキャンパスをもつ大学全体では6,000名の学生、200名の留学生が在籍し、1,200名の教職員を擁して各種80以上の修了証明書や学位免状を授与しているという。筆者が訪問したアボツフォードキャンパスは市街地からちょっとはずれた丘陵地にあり、淡い赤褐色

の瀟洒な2階建の校舎が周辺の緑とマッチしてゆったりと配置されており、3月下旬であったがすがすがしい気分のする構内だった(**写真1**)。

継続教育コースの1つである一般教養プログラ ムのESL(第二外国語としての英語コース)には 高校卒業程度で18歳以上が入学資格とされている。 したがって日本人を含む外国人が仮に必要な英語 力がない場合にはこのESLコースをまず受講しな ければならない。このESLは大変充実したシステ ムで、初級から上級までの5段階レベルと大学進 学準備レベルの6コースあり、それぞれ1セメス ター(半期間)で構成されている。学生は1週間 に各レベルの主要科目と選択科目のうち18から24 時間の授業を選ぶ。また語学実習室のコンピュー ターを駆使していつでも自主学習をすることがで きる。すなわち自分にあったプログラムを選び、 順次上級に進むことができる。継続教育コースに はESLのほかに前述したように職業専門コースと して農学、ビジネス、コンピュータートレーニン グ、刑事裁判、幼児教育、環境、美術、演劇から スポーツレクレーションリーダー養成、社会福祉 など20コースがある。また特徴的なのは、このコー スには関係した仕事につきながら実践力を身につ けるプログラムもある。いわゆる社会人が仕事に 従事しながらそれぞれ関係の職業教育を受講し、 必要な資格を取得したり、短期間に実践的な技術 をものにするというコースである。例としてはマ ルチメディア出版、薬剤師、歯科衛生士、幼児教 育、法律秘書などが準備されている。

これらの仕組みや運営は、わが生涯学習教育研究センターとしてもまた大学の今後のさまざまな活路を見出すためには、大いに参考にすべきであると思った。

そのほか継続教育コースには、われわれも毎年 行っているような市民教育やオープンキャンパス 的な成人教養教育などがあり、これらの事業への 参加受講はもちろん無料であるので全学の予算や 国、州からの助成金をもとにやりくりしながら実 施しているという話である。市民教育の内容は公 衆衛生、環境社会、政策論などが公開講座式で行 われ、成人教養教育にはレジャー、自己開発、自 己表現、シェークスピア演劇、天文学、芸術表現 など多種多彩な内容が企画されている。また、こ の成人教養教育には、正規の授業と同じように必 要単位を取得して学士の称号を得ることもできる。 継続教育の運営基金は受講生からの授業料が88%



写真2 継続教育コースの教室

で残りの12%は国や州からの助成金で構成されているようである。継続教育コースのこれまでの登録者数は17,000名にのぼり、21の証明書プログラム、1,100の短期コースがある。この継続教育コースには企業の技術者や個人経営者からなる非常勤講師が400名登録されており、20名の専任の教職員と4名のパート職員が勤務しており、年間予算は300万カナダドル(約2.8億円)で運営されている。

大学内の継続教育コースの建物と施設を見学させていただいたが、いずれの教室も少人数教育でコンピューターなどの施設(写真2)も充実しており、スタッフもてきぱきと教育指導していて明るく活気のある様子がよくわかった。昼時にはお忙しい中、大学の学長をはじめ他学部の学部長も交えて昼食をとりながら懇談した。当日通訳を引き受けてくれた日本人留学生の巣山淳一郎君(横浜出身)には多大な協力を得た。夕方、大学近くのバーでメンバーのみなさま(写真3)とおいしいビールと食べ物を家内ともどもご馳走になり、Brown女史らに見送られながらバンクーバー行きのバスに乗り込んだ。

あわただしいカナダ訪問だったが、生涯教育の一端を見聞でき、Evans学部長をはじめスタッフのみなさま、巣山君、さらにこの機会を与えていただいた学長および本センター、大学の関係者のみなさまには大変お世話になった。紙面をお借りして謝意を申し上げる次第である。(農学部 教授)



写真3 UCFVのスタッフと筆者

平成13年度静岡大学公開講座いよいよ開始

今年度**公開講座は**、9月1日より、11月17日まで、**清水**会場を皮切りに、**沼津、浜松、浜北**各会場にて、随時開催されます。各会場の講師、題目、

日程等は以下のとおりです。

今年度は各会場の希望をもとにテーマの設定が なされました。

	沼 津 会 場	清 水 会 場	浜 松 会 場	浜 北 会 場
講座名称	静岡発の世界史	静岡・清水平野の歴史と文化	人に優しい科学技術	くらしを変える最先端
共催・後援	沼津市教育委員会 (共催)	清水市教育委員会 (共催)	浜松市教育委員会 (後援)	浜北市教育委員会 (共催)
会 場	沼津市民文化センター	清水市中央公民館	静岡大学工学部 (佐鳴会館)	浜北市生涯学習センター(なゆた浜北)
開催時間帯	土曜日14時00分~16時00分	土曜日14時00分~16時00分	土曜日14時00分~16時	土曜日14時00分~16時
受付期間	8 / 27(月)~ 9 / 7 (金)	8 / 6 (月)~ 8 / 17(金)	8 / 13(月)~ 8 / 24(金)	9 / 11火)~ 9 / 21俭)
受付場所	〒410-0881沼津市八幡町97 沼津市教育委員会生涯教育課	〒424-0836清水市桜が丘町7-1 清水市中央公民館	〒432-8561浜松市城北3-5-1 静岡大学研究協力課	〒434-0038浜北市貴布袮3000 浜北市教育委員会生涯学習課
連絡先	TEL 0559-51-3420	TEL 0543-54-1321	TEL 053-478-1002	TEL 053-586-6201
開催日と 講義題目 及び講師	9/22仕) 「近現代の静岡と世界」 人文学部教授 山本義彦 9/29仕) 「中近世の静岡と世界」 教育学部教授 小和田哲男 10/13仕) 「幕末開港の静岡とロシア」 人文学部教授 松木栄三 10/27仕) 「アメリカ史から見た静岡」 情報学部助教授 杉山 茂 11/3仕) 「イギリス史から見た静岡」 人文学部教授 岩井 淳	名誉教授 土 隆一 9/22(土) 「原始時代の静岡と清水」 人文学部助教授 篠原和大 10/6(土) 「いほはらの国と廬原氏 一清水市の原像をさぐる一」 名誉教授 原 秀三郎 10/20(土) 「静岡・清水の風土と文学」 人文学部助教授 森本隆子 10/27(土)	9/22仕) 「眼球の動きをパソコンへ」 工学部助教授 海老澤嘉伸 9/29仕) 「直接触らないで身体の 温度分布を測る」 電子工学研教授 杉浦敏文 10/6 仕) 「福祉に生かす工学技術」 工学部助教授 木村元彦 10/20仕) 「身体になじむ医用材料を求めて」	工学部助教授 松田 智 10/13(土) 「コンピューターがひらく源氏物語の世界」 情報学部教授 長瀬真理 10/20(土) 「インターネットがひらく教育の未来」 情報学部助教授 堀田龍也 11/3(土) 「視覚障害者に光を 一人工眼の研究ー」 名誉教授 安藤隆男 11/17(土) 「ロボットはどこまで人に役立つか」

平成13年度生涯学習教育研究センター事業の実施

平成13年度生涯学習教育研究センター事業は、 上記「静岡大学公開講座」の開催のほか、学外公 開シンポジウム「多文化共生時代の地域づくりと 大学」(仮題)を浜松市において12月に、また今年 度から初めて行う出前講演会「飛ぶ教室」は、第 1回を大東町にて11、12月に各1日実施する予定 です。そのはか県公民館連絡協議会との共催事業 である「生涯学習指導者研修事業」を12月上旬に 開催すべく計画を現在進めつつあります。 また調査研究事業として、今年度も引き続き、 学内公開シンポジウム「大学と博物館を結ぶ④」 と、「学習ネットワークと生涯学習④」を開催いた しますが、前者は、次頁にありますように、7月 14日(出)に遠隔教育システム等を活用して浜松地区 情報学部学生・教職員等の参加を得て実施いたし ました。また後者は、14年1月にSCSシステムを利 用し、他大学との意見交換を交えて、実施する予 定です。

生涯学習教育研究センター運営委員会の新メンバーきまる

これまで生涯学習教育研究センター運営委員会 と生涯学習教育研究センター公開講座委員会の二 本立てで、センター事業及び静岡大学公開講座を 実施してまいりましたが、今年度から一本化し共

生涯学習教育研究センター長 ©滝 欽二 人文学部助教授 伊藤 恭彦

教育学部助教授 石井山竜平

情報学部教授 ウィルキンソン 理学部助教授 山内 清志

工学部助教授 小野 仁

に運営委員会にて事業実施をすすめることとなり ました。今年度の事業実施は、以下の運営委員の 方々によってすすめられています。

農学部助教授 徳山 真治 電子科学研究科教授 浅田 寿生 電子工学研究所教授 中西洋一郎 生涯学習教育研究センター教授 柴垣 勇夫 生涯学習教育研究センター助教授 阿部 耕也 の印は委員長

「大学と博物館を結ぶ」公開シンポジウムを開催

第4回の「大学と博物館を結ぶ」の公開シンポジウムを去る7月14日(出)に実施しました。今回は、「博物館学芸員と語る」と題し、地域の博物館、美術館、自然史博物館、東京国立博物館の学芸員の仕事について語ってもらい、学芸員をめざす学生やボランティアを行っている学生、一般社会人の方々と対談する機会としました。

またこれを浜松地区の情報学部と学内遠隔教育システムで結び、情報学部の学芸員志望者及び教

パネラー: 静岡県立美術館 主任学芸員 山下 善也 静岡市立登呂博物館 主幹 中野 宥 東京国立博物館 研究員 吉田 知加 (本学大学院教育学研究科修了)

豊橋市自然史博物館 資料第1係長 家田 健吾

司会 : 生涯学習教育研究センター教授 柴垣 勇夫 討論参加: 静岡大学情報学部助教授 高松 良幸

国立歴史民俗博物館助教授 設楽

職員、学芸員の方の参加を得ました。同時に、SCS メディアシステム利用で大学等研究機関へ呼びか けたところ、国立歴史民俗博物館、北海道大学な ど全国 5 大学・機関の参加を得ました。静岡・浜 松キャンパスに合わせて、120名の参加がありました。 パネラー、コーディネーター等は以下の方々に お願いし、様々な経験をお話しいただきましたが、 参加者との質疑も活発に行われ、学芸員と生涯学 習のつながりなど有益なシンポジウムとなりました。



「大学と博物館を結ぶ④」質疑応答風景

今号からセンターへ寄せられたお便りを掲載す

生涯学習教育研究センターへのお便り

・藤枝市の鈴木江美さん(主婦)から(13.03.13)

「やきもの考古学」の楽しいセミナーに参加させていただきありがとうございました。少し前に三島の佐野美術館で桃山時代の陶芸展を見て興味を覚え、自己流で勉強し始めていたところでしたので、とてもありがたい企画でした。先日も藤枝の郷土博物館にセミナーでお友達になった大須賀さんと行きましたが、復元のお茶碗をみて「これはちょっとパテが厚いわねェ」なんて批評していました。楽しいセミナーをありがとうございました。



「やきもの考古学」受講中の鈴木さん (右端)

・寺尾さんのアメリカ便り

(前・研究協力課事務官、国際教育交流担当職員長期研修中。 13.07.23付メールの要約です)

こんにちは。センターもお忙しいことと思います。こちらも忙しく過ごしています。先日モンタナ州立大学の生涯 学習オフィスをレポートしました。参考までに送ります。

生涯学習オフィスによる夏期講座(モンタナ州立大学) ○単位認定コース

農業教育(農業リテラシー2単位、農業教育コンファレンス2単位)、動物の生息域科学3単位、美術、生物学、商業、地球科学など1単位、その他に教育、歴史、環境科学、数学、舞台芸術、音楽、アメリカ先住民研究等。

○単位非認定コース

博巳

芸術関連入門・養成講座、スポーツ・キャンプ、夏期 家族研修、55歳以上のための短期学術体験、外輪船で行く ミズーリ紀行、先住民の文化と自然史を学ぶ等々。

ることといたしました。

スタッフも多く活発です。寺尾静乃

生涯学習教育研究センターでは、学内の公開講座実施情報、大学開放事業などをこのニュースレターに掲載し、広報します。最近の計画、将来計画をセンターまでお寄せ下さい。TEL/FAX 238-4817がセンター資料室・受付です。

ホームページ http://www.shizuoka.ac.jp/~cerll/

センタースタッフ の紹介

写真手前左から滝セン ター長、宮川 事務補佐 員、後列左から阿部助教 授、柴垣教授

の 4 名です



地域と大学 第8号

静岡大学生涯学習教育研究センター情報誌

平成13年7月31日発行

〒422-8529 静岡市大谷836 (理学部 B 棟 1 階) 静岡大学生涯学習教育研究センター TEL 054-237-1111代) TEL/FAX

054-238-4817(資料室•受付)

事務局 静岡大学研究協力課共同施設係 TEL054-238-4264